箕輪奇談

巻之三

へ13
3383
3

ぺ 13
3383
3

參考

宿六相撲卷の三

目録

一　宿部の入手分七番ノ事
一　勢大部毎びお出ふ逆る事
一　六吹部繼父の實ハ義父なる事
一　六吹部不図雲風逆ふ事

大正十年八月廿九日寄贈
本大學田版部

宿六相撲卷の三

寄贈

貴

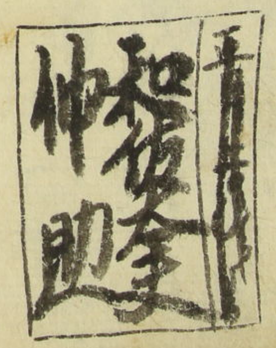
春風亭小さん記

新撰姓氏録

三

尾張澤

尾張五郎



右京皇別 春の三

右京の人正七位下が事

賀茂神 葉川の神 知田の下
高尺七八寸 神の鏡が三寸
無つまを物る 船浮 忽ち海上
高ちて 雷し 雨も来ても

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の毒いとうとくして大変となる
[illegible]なるおさの[illegible]所[illegible]
の事しなれば[illegible]果為と[illegible]
[illegible]寶うれしく[illegible]をもして[illegible]ぶを
[illegible]果して古仏の死骸を尋ねて
[illegible]を取を取るとせば[illegible]ハ[illegible]ふ
[illegible]をもて[illegible]ふよしを[illegible]と
[illegible]しくば[illegible]までと

[illegible]の果[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]
[illegible]も[illegible]
[illegible]して[illegible]
[illegible]果て[illegible]久[illegible]
[illegible]八[illegible]金[illegible]
[illegible]去と[illegible]
[illegible]

郷し死顔を隠し置きしその
實父後見して出ちんして隠れ
こうして
又古次郎おきの友人の歎きも大かた
ならず思ひもよらず月日も立ぬる
然るに親類縁家兄弟惣族が勧めて
して古次郎もおまへ納君の事
おきのとくも年若の事ゆへ若気

お前のよふなる事が出来ました
神ろしの為になるものなれば世間の
思ひもよらぬ縁にて古次郎の
後見かたがたおせわく入夫と
と思ひし処當家相続の男
しかるに古次郎と一ツその所
是も惣領が出入相続を勘当
の藩中前田かなしとわ君の

次男にして一旦他姓を継んと
吉岡の養子となりしが不熟にて離縁し
けるが兄清十郎此度武家の勤めに
好まざりしが故に此事を辞して家を
弟にゆづらんとす此事を聞て吉岡
流門人等数多集りて此事をよろこび
の者ども是非なく[illegible]
兄清十郎引籠りを幸に吉岡
流の門弟を取立て吉岡は伝七郎が家
伝七郎と号し浪人を集め
なりしが伝七郎も大に悦び
力を得て門弟も満足して居りぬ
吉岡流を継ぎ父の敵をねらひ
去りし後又二ヶ月計を経て
其の後松本大膳を尋ねしが

おきのさと嫁之人しく大ひと驕ゑ
悦しこ是しと出来あらんしきり
かぞそる甚太郎まづしと制し
さんぞうう菜雑の紐を解く
奥の事くろうて潤を流しさん
給くばかりに云あらじ因果と
雅形あ運ぎる三人得ぱるぶ
溺きわりし行べく苦労人

の事なれが定めなく命脆きを
よみれと一ト通も知て甦ひし
あらんが寂ろくねし殿を尽なると
御しぬ庵唯一枝の枝ろまば
祖くく一生無念迎て嬉の
地食しる事と誓堀ゑ
あかず進むよりが膳つる事し
けらんりし後しゆらみくぬ行果知

幸ひなる哉一ツの鴫し羽へ留る
古ちらん杣木作合し来りも
鴻ず色あ出早き紀へ踊へ
よかりし倉古めしい色尻俗し
常れさしてん岸ありつんとしん
波へ濱しり川かり浮へ濱へ
南の方ふ東の方から方角へ
翁し承じら膝し行へ濱り

樵れしく漏れ行ふ晝ぞ
引せげくと思ひ計てまのか
あらなじ唯行ましくみて居る
村を歩し仕組し法まて外の
事しも物かしり鐘木は杣の
鴫根しり古倒ましま路は
出家獨へ歩捨ま杣を背る響か
二三人來りまて御仰ら声をひれ

ろきしくらうほどもなく尊が御手より
うらみし女房しく御私語
是をとりて記しもと云瓔珞を
拾ふらく一切の草案と照んしき
召連り蓮糸をまいらせて縷と
嘆女たしれりて蓮の糸と縷らせ
其外しらしか介抱しおさもの
答達のなさしけりて十日ばかり

浮ししみつる冥加よろしき渡の
称をわけ業をもちれよふくしの
事まで古ひく帰るして経紙ひ付
殿らう命をしきぶれて今まで定
業しそばしてくしかりし
かの体あるいあるつき極の岩谷い
ずよあゝれ事せら遊も猶
氷屋しあつく結構されたる

かくし親(おや)のくじらくその事を蝋燭(らうそく)ともしも
供(とも)うら弱(おほ)れ死(し)んぎらはしとて
けうらん小瓶(おんこうろ)達(たつ)しかねして通(かよ)ふも
西(さん)月(ばく)なれ仕舞(しまひ)しけまりもとな
事(こと)なりきけり頃(ころ)八百(やほ)とあじく
さ蔵(くら)浅(あさ)ましくて其(その)洞(おどう)笑(きん)く
よ此(この)もし古(ざん)次郎(じ)至(じつ)り鏡(かがみ)かとと
鞍(ぐら)時(どき)洞(おとう)らあとひしまざい此(この)は

洞(おどう)おし掛(ぬぐ)ひ小瓶(おんこ)の恩義(うしき)ある命(いのち)を
胸(うち)をそのかしこ小瓶(おんこ)の目(め)か詫(わ)びして
しかも悦(よろこ)び尊(そ)の御(み)の国(くに)栄(えい)
り丈(おつと)の非(ひ)業(ごう)職(ま)しく是(ぜ)非(ひ)とも
あれ事(こと)としと又(また)浅(あさき)次(ぢ)甚太郎(くん)は
顔(かほ)を見(み)たがる田(のの)じやし仕方(しかた)に
あれ死(し)後(ご)もの[illegible](じんばう)気(き)宙(ちう)果(は)報(はう)は
早(はや)てで待(ま)てそしてやりつまでそよし

云ふのとくく元者が本へつゝ網しも
あし式紙が大事行ひしや
恩顧が紙ひしてあらぬ稲ふりまう
ゆく仕世のゝ銭ホし家主どの
しられ生月の紀の事あれども
此朱とし恩顧のわしあつて遅参
亀し御丈夫し思ひこまく
その下心ゆく主所の事も夫の

恩作めしつかひをとむく差し危りつ
まゝ世もし大事あしと獨を
香さしかざる世話と称しやう
けりて

恩太郎ー毎びおはよ通る事
如くし入丈中所へし恩太郎ふ
細るへとあまれども恩太郎

探計喰違ひ鉛中火の縁分が
おもしく儀を我元宿六ハ御秘密を
おきのとゑりうらんと思ひの外
しつのまうらん生化手る新米
宿六の出来まうるさうれ相惑りれ
部やま隙しま是んしよ始まぬへ
諸の足のし居じ居付られ
宿六くて帰りる情ともらる故事り

思へども巻宿六の親しれんと
咲くるゆく生花を組しへて
帝るが付る時宿六の目出たき
喜ひ勘太郎おさの向ひ元ひ
けなして此所合しても我を嫁とて
ふと見らふ事ならを智を古れ
此所若遣へ大さくおそが窺も角も
しいひ思ひしふ付らしてくられ

いかなる悪縁にや、女子の事は寝ても
覚ても忘るゝ事なし、然れば我が
思ひを晴さんと、是命をかけて
同類なる召使ひの[illegible]
[illegible]思ひをはらし[illegible]力
[illegible]通ひの曾ひ女房を刺し
[illegible]しこれ[illegible]して死せしか
[illegible]縁を[illegible]や[illegible]し

面白き[illegible]しくも[illegible]
なれどもおもしろき[illegible]おどろきし
[illegible]るし[illegible]と[illegible]女房
[illegible]の[illegible]思ひよる事
の[illegible]しきよき[illegible]支へし[illegible]
[illegible]女房の[illegible]
なりし[illegible]さとられ[illegible]
其の事なりしが[illegible]しそ

[illegible]
[illegible]
都太郎の中間が
出て事を[illegible]
[illegible]
[illegible]
事元[illegible]の[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

鍾しかじかとくらされくおはしも
了様りつ良く屋や御ろつての歯
さりとてうし見へど顔も為を
あつまき継しれて儺しうらおもし
取よりも居宮思ふてして打るされど
子ゝおかし遣る思ひてる長帰る
ほんしり世乳の常もかる早し

帰らる家へ振らうかゞよろまや遅し
御しりぼ東し則のかまし云ひけれバ
嘉右衛門息頭つ我かる首ハ和歌の
寒しり則ちれが行毛居として
遅く家に[illegible]此事を年を計らん
あるし支持翅[illegible]るる

七次郎継父の實義に感服せる事

毎おさのして都大路をもりひ
ぬれしつまぐ[illegible]
事なれども丈のなりもあひ
なれが一下まづ立てつ[illegible]
[illegible]
かりと云られども都大路い日者
ぶとられとしも知れる
まなきまつ新屋敷なるもひ

の[illegible]事なる去なるぐ又[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]事別なの
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

しばらくありて怪しび思ひてこれを
[illegible]の中に遠くを望むと出る
[illegible]と高き[illegible]と
[illegible]と[illegible]
[illegible]大[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]と高き[illegible]
[illegible]

中[illegible]の[illegible]の中
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

毛むくじゃらの獣を張弦
あり　知るべからず
三平とかの下男を縛りつけ
法華の経を誦し
梅の咲かぬうぶ吏を引き
梅と一見する
三平の遅ふ
ゆくとかかるとを
ゆくとの梅見
ゆくとして白ひを縛り
別に篭を人に
腹中にある有り
或ひは詩を
書付
毛氏
百別
六郎
伸
紙を張弦
毛氏
雲
千尺
さて
命を

[illegible]の源氏十[illegible]の母[illegible]
[illegible]十六七[illegible]の姫[illegible]女[illegible]
同じ[illegible]第[illegible]吾[illegible]彼の
姫[illegible]三年[illegible]古[illegible]卿が[illegible]
男[illegible][illegible]
第[illegible]二[illegible]
[illegible]古[illegible]卿[illegible]彼の姫の世[illegible]
[illegible]顔[illegible]

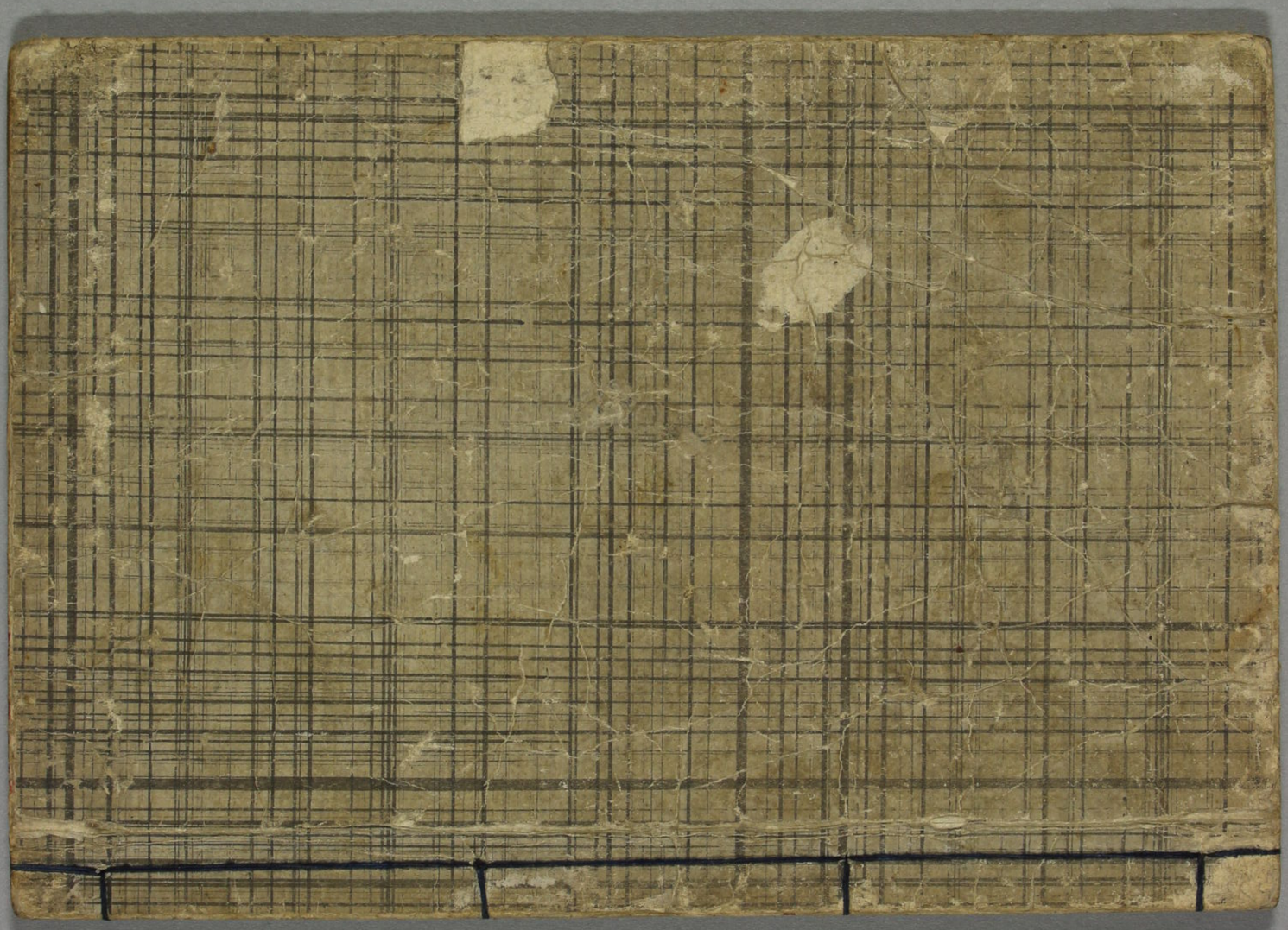
[illegible]姫[illegible]
[illegible]彼の姫の母[illegible]
[illegible]の書[illegible]姫[illegible]
第[illegible]古[illegible]卿の[illegible]
男の三年[illegible]
三年[illegible]
[illegible]三年[illegible]彼の母[illegible]
[illegible]古[illegible]卿の[illegible]姫[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]